

## 2 学年課題研究『発表会』 審査結果と講評について

12月22日の2学年課題研究発表会（グループ発表会）における審査結果は以下の通りです。  
 教員評価は発表評価：ポスター評価を3：7として平均値を算出しました。また、生徒たちの視点による生徒評価を集計し、上位3班を決定しました。1月26日の代表者発表会では、各グループの教員評価1位+生徒評価1位の合計9班が代表者として発表しました。どのような観点で評価されたかを2学年指導教官の先生方から講評をいただき、生徒および教員が共有することで今後の課題研究の向上に役立ててください。

### ◎各グループ1位について

- Aグループ 1位 0725⑦A「マクラギヤスデの生態調査」  
 班長 7組 全体順位（教員評価+生徒評価）1位
- Bグループ 1位 0701⑦B「コロナストレスの対処法とは」  
 班長 7組 全体順位 5位
- Cグループ 1位 0134⑤C「頭が赤い魚を食べる猫」  
 班長 1組 全体順位 14位
- Dグループ 1位 0739⑥D「環境に配慮し、防災・減災に役に立つ食の提案」  
 班長 7組 全体順位 10位
- Eグループ 1位 0702③E「風水害から学ぶ防災知識」  
 班長 7組 全体順位 16位
- Fグループ 1位 0734⑦F「都市型津波の脅威と影響」  
 班長 7組 全体順位 2位
- Gグループ 1位 0703⑦G「塩竈市浦戸諸島における地質構造」  
 班長 7組 全体順位 3位
- Hグループ 1位 0733⑦H「避難訓練の必要性」  
 班長 7組 全体順位 6位



写真) 各教室で間隔をおいての発表の様子



写真) 発表後、各自のスマホで生徒評価を入力している様子

### ◎生徒評価1位～3位について（生徒評価得点平均19.5点）

- 生徒評価1位 0311⑦H「グレープフルーツを食べた後の味覚の変化」  
 班長 3組 生徒評価得点 23.3点
- 生徒評価2位 0725⑦A「マクラギヤスデの生態調査」  
 班長 7組 生徒評価得点 22.2点
- 生徒評価3位 0333②D「古き良き日本の神社」  
 班長 3組 生徒評価得点 22点
- 生徒評価3位 0638③F「フォアハンドストローク時の打点におけるパワーと回転量の関係」  
 班長 6組 生徒評価得点 22点

生徒評価 1位	0311⑦H「グレープフルーツを食べた後の味覚の変化」 ●身近な題材を取り上げ、自分たちの疑問を解決しようというテーマ設定が面白かった。 アンケートを学校単位でとっていて苦労もあったと思う。ポスターもわかりやすく、見やすい構成だった。
生徒評価 2位	0725⑦A「マクラギヤスデの生態調査」 ●東北地方には生息していないと考えられていた「マクラギヤスデ」に着目し、飼育を試み針葉樹のみならず、広葉樹でも生息が可能なることを突き止めた。発表では写真を適宜使用し、見やすくわかりやすい説明を行った。今後は、他のヤスデとの比較などを取り入れ、マクラギヤスデの特異性を示す内容に深めていけば、よりよいものになると思われる。
生徒評価 3位	0333②D「古き良き日本の神社」 ●神社のことに興味を抱き、自分たちの地域に密着した話題で興味深かった。調べながらの分析だったが、持論も入れて社会分野でもこのように分析すれば良いのかと勉強になった。 0638③F「フォアハンドストローク時の打点におけるパワーと回転量の関係」 ●テニスのフォアハンドストロークについての研究である。当初はボールの回転量とボールの威力について研究する予定であったが、回転量を計測することができなかつたため、打点に着目することに焦点を絞った。打点を前にすることの優位性が確認されたため、自分の競技力の向上に生かしてほしい。

	教員評価：1位	教員評価：2位
A	0725⑦A 「マクラギヤスデの生態調査」 ●ポスターの構成がバランス良く、また図表においては個性的な表現もあり、随所で工夫されている点が評価できる。発表時においては、声がよく聴衆に届き、研究に対する熱意を感じる点も感じられた。	0612④A 「効率的な風力発電機の羽の考察」 ●複数の実験からデータをまとめ、わかりやすくポスター（パワポ）にまとめていた。発表時においては、内容を丁寧に表現し、聴衆に研究内容を十分に伝えることができた。今後、ポスターを完成させることに期待する。
B	0701①B 「コロナストレスの対処法とは」 ●テーマがタイムリーなだけでなく、研究発表としての体裁がよく整っており、内容も伴っていた点が良かった。仮説から考察、結論に至るまでの筋道も明確で分かりやすく、グラフなども効果的に使っていた。	0128②B 「隠れた魅力～引き出せ！警察の魅力～」 ●「警察の魅力」をアピールする上で、どのようなメディアを使えば良いかを提示できたのは良かった。そこからさらに「どのような点を」「どのような方法で」など具体的に提示できればなお良かった。
C	0134⑤C 「頭が赤い魚を食べる猫」 ●日本語独特の文法構造に着眼し、ダブルミーニングとなる文章を材料に、「語順」「読点」の位置を変えることで、文章の意味を一意的にすることが可能であることを結論づけた。また、多言語との比較もしているところがよい。質疑応答についてもしっかりと丁寧に回答していた。	0107③C 「教育現場におけるより良い指導の在り方と抱える問題～体罰編～」 ●「体罰」という一見すると答えが決まっているテーマについて取り組んだが、メリットとデメリットを比較することで、デメリットの多さ特に「される側」のメリットが一切ないなどを説明するとともに、教育現場に体罰が入った経緯についても調べてある。欲を言えば、ポスターの作成の際に、目線の動きを考慮した工夫があれば良かった。 0417③C 「一人一人の生徒と向き合う」 ●「障がい者」の認識とその事実に着目し、問題点を見いだした。その改善策においても、学校生活の中で実現可能なものを提案し、その際に起こりうるリスクやその対応方法等も提案している点は現実性が高い。今後は、学校現場においても積極的に活用されている事例等を取り上げ、比較・検証していくことでさらなる提案につながるのではないかと考えられる。
D	0739⑥D 「環境に配慮し、防災・減災に役立つ食の提案」 ●研究目標とする環境に配慮した食について試行錯誤し実際に手作りして実証し、さらに廃棄量の計算などを取り入れ分析してメニューを考案している点など、展開に順序立てがありよかった。高校生レベルの防災・減災対策として共感できるアプローチであり、発表も声を通して分かり易かった。	0333②D 「古き良き日本の神社」 ●最もポスターが見易く、奇麗に纏められていた。加えて内容も自分たちの興味・関心から発展的に深化したものであり、好感が持てた。発表も落ち着いた順序立てて丁寧に説明し、観客への配慮が感じられた。
E	0702③E 「風水害から学ぶ防災知識」 ●テーマ設定の理由・根拠・研究の方向性が明確で、流れがわかりやすい。また、ポスターの説明以外にも、補助的な資料提示をするなど、聴衆が理解を深める配慮が見られた。災害時の行動を考える「マイタイムライン」作成において、「行動カード」の工夫により、楽しく取り組みやすい、有効な授業プランになっている。	0328②E 「新選組はなぜ北海道・東北に史跡を残したのか」 ●新選組の史跡が北海道や東北に多くあることについて、グラフ等を取り入れてわかりやすく提示しており、質問に対してもしっかりと丁寧に回答していた。もう少し具体的な話が入ってくると、歴史にドラマが感じられ、より聴衆の興味を引く内容になるのではないかと思う。
F	0734⑦F 「都市型津波の脅威と影響」 ●都市型津波の波高についての調査研究である。津波発生装置を用いて津波をミニチュアの建物を配置した街に発生させ、建物間の距離を調節することによってどのように波高や波力が変化するかの実験を行っている。ただの結果の羅列にとどまらず、考察がされており、質問にもしっかりと返答できており研究の結果が知識として備わっている。	0638③F 「フォアハンドストローク時の打点におけるパワーと回転量の関係」 ●テニスのフォアハンドストロークについての研究である。当初はボールの回転量とボールの威力について研究する予定であったが、回転量を計測することができなかつたため、打点に着目することに焦点を絞った。打点を前にすることの優位性が確認されたため、自分の競技力の向上に生かしてほしい。
G	0703⑦G 「塩竈市浦戸諸島における地質構造」 ●浦戸諸島の地質について、現地調査、文献、アカデミックインターンシップによる岩手大学教授からの助言など、様々なデータ、ソースを基に課題研究を行っていた。今後、具体的な防災減災策の研究につながるよう期待される。	0710⑦G 「刈田岳における融雪型火山泥流の考察」 ●蔵王を研究対象として、融雪型火山泥流に対する防災減災について研究がされていた。他の調査期間の調査基準、数式を用いながら、蔵王における予想被害の予測や、それに対する対応策の考察が行われていた。
H	0733⑦H 「避難訓練の必要性」 ●避難訓練の内容について、海外3カ国のアンケートと日本を比較しアンケートの結果を持論と裏付けをとりながら分析をしている点がすばしかった。時間内で発表できるように必要な部分のデータ提示をわかりやすく工夫していた。	0736⑦H 「災害発生時の適切な応急処置のあり方」 ●ポスターの構成や見やすさの点が素晴らしい。自分たちで考案した応急処置も検討されていて良かった。応急処置の考案にさらに何かデータを足すことでさらに良い研究になると思う。その点が多少足りなかつたと思う。